

2023年ドーハ国際園芸博 屋内出展基本方針 骨子

1. 基本的考え方

- ・ 屋外出展と一体となった出展とする。(屋内展示施設の中で展示)
- ・ 日本の花き園芸文化の魅力を伝えるとともに輸出拡大につなげる
我が国の多様で高品質な花き、花き園芸技術、緑化技術、そして奥行きのある花き文化を発信するとともに、国産花きの輸出拡大に取り組む。
- ・ 被災地復興支援への感謝と横浜国際園芸博のPR
カタールの東日本大震災への支援(資金提供とLNG・LPGの追加供給)に感謝して被災地で生産された花きの展示により被災地の復興を示すとともに、2027年横浜国際園芸博をPRする。

2. 展示・催事等の内容と方法

(1) 展示

- ・ 日本の豊かな四季を表現する。
- ・ 出展者(地方公共団体、民間団体等)の特色を活かすとともに、開催国の関心に応える展示とする。
- ・ 実物や写真、映像等の様々な媒体を組み合わせる来場者の記憶に残る展示とする。
- ・ 展示品の知的財産権に配慮する。

(2) 輸出拡大に向けた取り組み

- ・ 問い合わせ先の表示、名刺入れの設置などにより取引拡大につなげる。
- ・ 日本出展の記憶に結びつく来場記念品や園芸関連品の販売を行う。

(3) 催事

- ・ 開会式、ナショナルデー、閉会式では、生け花、フラワーアレンジメントのパフォーマンスなどにより日本の花き園芸文化を発信する。

3. 広報活動

- ・ 雑誌などの紙媒体、ウェブ、SNSなど多様な媒体を活用し、日本の展示・催事の様子、現地でのトピックス、各種コンテストの結果等を情報発信する。
- ・ 日本国内で積極的に情報発信する。特に花き園芸関係者へ周知する。
- ・ 開催国の来場者に対し、展示だけでなく、花き園芸についてインフォメーションカウンターやウェブで広く情報発信する。

4. 専門スタッフ等

- ・ 専門スタッフを配置して展示花きの品質を保つとともに、将来の花き園芸業界を担う人材の育成と交流の機会とする。
- ・ 専門スタッフを含めた関係者による展示替えの作業が深夜とならない展示計画とする。
- ・ 現地の日本人コミュニティにボランティア参加などの協力を求める。